

多文化共生推進基本方針を策定するに当たり聴取した
区内日本語学校等、外国人住民及び外国人留学生の意見

No	主な意見の要旨	区の考え方
「Ⅰ 言語によるコミュニケーションの円滑化に向けた環境の整備」 に関連する意見		
1	日本語支援で読み書きとあるが、話したり聞いたりもある。読み書きだけでは不十分と感じる。	会話、読み書きを含めたコミュニケーションという観点から日本語学習を充実させていく。
2	言葉が通じづらいことから医療サービスを受けるのに躊躇してしまうので多言語対応をしてほしい。	医療も含め、関係する団体と情報共有や連携を検討していく。
3	日本語は難しく、地域の日本人と会話するのが難しいと感じるので、日本語の学習機会を増やしてほしい。	中野区国際交流協会が実施している日本語教室の地域展開を進めていく。
4	住民登録や健康保険などは、母国語で話してもらった方が安心だと思う。	A I 多言語通訳システムを活用し対応していく。
「Ⅱ 外国人が安心して暮らしていくための生活支援」 に関連する意見		
5	区報が難しい。外国語で読めるカタログポケットなど便利なツールがあることを周知してほしい。	外国人にとって有益な情報を広く発信していく。
6	外国人への案内は、文章より、動画の方がわかりやすいと感じる。	文章だけではなく、見て、聞いて理解できるような発信も検討していく。
7	区のホームページだけではなく若い人たちがよく見るSNSで情報発信してほしい。	SNS等、若い世代が触れやすい媒体の活用により情報発信を推進していく。

8	来日当初は、銀行口座、携帯、住宅賃貸など多くの契約をしなくてはならないが、必要な書類などがわからないので、始めにやるべきことや、どこで何が必要かについて示してくれるものなど、支援してくれる仕組みがあるとよい。	外国人のニーズ、状況に合わせた情報発信を推進していく。
9	施設を利用したいが、どこにあるかや、どうやって利用するかがわからないので情報をまとめた一覧があるとよい。	なかの生活ガイドブックやホームページなどにおいて提供する情報を拡充していきたい。
10	海外から1人で来ている場合は、寂しさから心理的な問題を抱えることがあるので、悩み相談ができるとよい。	外国人のための専門相談会を充実させていくなかで、外国人が抱えている様々な悩みについて対応していきたい。
11	地域のイベントを網羅しているガイドブックや、外国人向けの情報をまとめたホームページがあるとよい。	なかの生活ガイドブックやホームページなどにおいて提供する情報を拡充していきたい。
「Ⅲ 地域の一員としての活躍の場の創出と相互理解の醸成」に関する意見		
12	日本人の友人や知り合いが欲しいが、関わる機会が少なくきっかけがつかめないので、交流する機会を増やしてほしい。	町会・自治会や区内大学と連携し、外国人を含めた誰もが気軽に参加できるイベント・交流事業を推進していく。
13	協働な関係を築き、継続していく上では、地域住民が外国人に対し「やってあげる」という関係ではなく、お互いが対等の立場で、「一緒に行っていく」という関係性が重要である。	外国人と日本人が互いに認め合い、地域の一員として地域社会に参加できるよう、交流機会を創出していくことで意識を醸成していく。

14	例えば料理など、一緒に共同作業することが交流の始まりへとつながるので、相互理解を考える上では、一緒に作業を行うことが重要だと思う。	共同をテーマに、相互理解が深められる交流機会の充実を図っていききたい。
その他		
15	関係団体が集まって、方針の進捗等について意見交換をする場を設けてほしい。	方針について、関係団体と意見交換する機会を作ることを検討していきたい。